

一昨年は新型コロナウイルスの影響で見送った一年に一度の芋煮会を、去年に続き今年も開催することができました。風のない穏やかな好天に恵まれ、集まった大勢の参加者は盛りだくさんの内容を楽しみ、お腹いっぱいになりました。

9時を過ぎると徐々に参加者が集まり始め、持ち寄った食材が大鍋に入れられました。その大なべを初め、キャンプテーブルや調理道具、スコップやかまど、バーベキューコンロなどたくさんの道具類をリヤカーに載せました。重すぎて不安定になったリヤカーは途中で荷崩れる心配もあり、大人たちが左右について運ぶことになって先に出発しました。続いて参加者たちが紅葉の美しい中道を芋煮会の会場に向けて進みました。



資機材の積み込み



リヤカーを引く男性陣



紅葉の中を移動

会場に着くと、まずキッチンとバーベキューコンロとかまどの場所決めをして、それぞれの準備に入りました。参加者の男性たちがバーベキューコンロを設置するための穴を掘り始めました。かまどには子どもたちが集めてきた薪をくべました。一方クルミ茶用の小型コンロでは用意してきた炭に火がつけられました。



穴掘り



かまどの準備



クルミ茶のコンロに点火

この日はお昼頃から風が強くなるとの予報とのことで、バーベキューコンロの穴はいつもより深めに掘られていました。コンロを設置したあと薪が次々とくべられ火がつけられました。クルミ茶作りのコンロでは、クルミ割り器で割ったクルミを網で焼きながら、やかんでお湯を沸かし始めていました。竹パン用の竹を小学校3年生以上の子どもたちで伐り出しました。同時にマシュマロを焼くための細い枝も用意しました。



バーベキューコンロの準備



クルミ割り



パン用の竹伐り

クルミ茶用のお湯が沸き、焼いたクルミを投入しました。そしてしばらく煎じるとクルミ茶は完成しました。思ったより濃い色に出ていました。参加者は好みで砂糖を加えて味わっていました。その頃焼き芋もちょうどできあがりしました。焼き芋は参加者数の半分以下の数であったという間になくなってしまいました。



クルミをやかんに投入



完成したクルミ茶



焼けたサツマイモ



バーベキューコンロを取り囲むようにパン焼きの輪ができていました。竹の先に生地を巻きつけて焼きますが、火に近づけすぎると表面だけ焼き色がついて中は生焼けになってしまいます。芋煮会に何度も来ている子どもたちはそのあたりを心得ていて上手に焼いていました。焼けたパンに参加者から供された手作りのジャムをつけて食べる人もいました。その頃には芋煮もできあがり仕上げのネギが投入されました。



パン焼き



焼けた竹パン



芋煮が完成

できあがった芋煮は、自分でよそう人、よそってもらう人、さまざまでしたが、下の方から大きくかきまぜながらよそわないと具が片寄ってしまうと声をかける人もいました。できあがった芋煮はたっぷり過ぎるほどの量で、余ってしまわないかと心配しましたが、中には3杯4杯とおかわりする人もいて、無事完食しました。みんなで後片付けをしたあと、輪になって振り返りをしました。みんな口々に楽しかった、美味しかった、また来たいと話しました。今年も四季折々の生きものたちの姿に感動した体験や、生きもの持つ不思議さの発見と出会いの場となったこの森の豊かさに感謝して一年の締めくくりとしました。



芋煮をよそう



食事風景



振り返り

最後に、この日は従来の自然観察会のような観察項目の共有はしませんでした。森に入った子どもたちが次々と見つけてきた生きものの一部を写真で紹介します。



コクワガタ



マダラカマドウマ



クヌギカメムシ



コナラの実生



オオカマキリ



エグリゴミムシダマシの仲間

平和公園での観察項目：コクワガタ、マダラカマドウマ、ムカデの仲間、ハナムグリの仲間の幼虫、クヌギカメムシ、コナラの実生、オオカマキリ、エグリゴミムシダマシの仲間

芋煮会での活動項目：薪集め、落ち葉集め、竹パンと焼きマシュマロ用の竹伐り、大鍋の芋煮づくり、焼き芋づくり、パン焼き、マシュマロ焼き、スモアづくり、クルミ茶づくり、餅焼き